

農業男子

都市農業のファン拡大を狙う「農業×男子」特集(東京都小金井市で)



「農業×男子」の特集(東京都小金井市で)は、2人が出荷などを行うJA直売所の場所を「会えるかも?ポイント」として掲載し、直売所へも読者の目を向けさせた。企画や取材を担当した企画広報課の大島誠明係長は「農業やJAに関心のない人にも興味を持ってもらえようという企画にしたかった。読んだ人が都市農業を知るきっかけになればうれしい」と話す。

うち女性5人で、JA女性部との交流も予定している。同グループは、2011年度から11回にわたり146人を派遣し、営農再開に向けた支援活動を行っている。今回はJA戦略型中核人材研修「鷹山塾」の第6期生17人と県連職員7人を派遣。岩手県の手果のJA新しい管内の営農集団「グリーンハート」や「まだ」で農業復興を支援する。

支援隊説明会があり、JA鹿兒島県中央会の久保茂吉会長は「現地は復興に向けて少しずつ前進している。現地での交流を深め、支援を頑張ってください」と激励した。



JA広島市に送った土のう(富田林市で)

広島市の復興支援

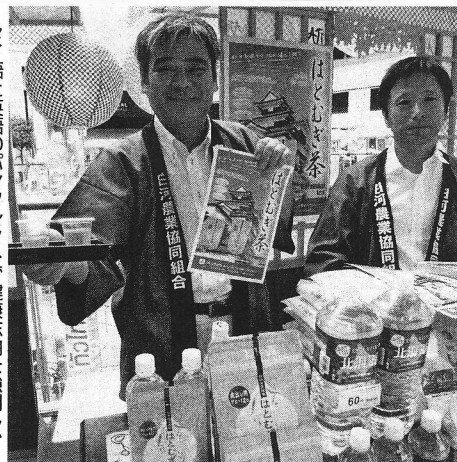
JA土のう袋2万枚送る

【大阪南】JA大阪南袋2万8000枚を送った。3日、広島市で起きた土砂災害の復興支援として、JA広島市に土のう袋2万8000枚を送った。土井広和総務担当常務は「少しでも被害に遭った人の役に立つことができれば」と話している。

はとむぎ茶

タイ展示会で好評

福島JA「健康飲料」をPR



タイ語と英語のパンフレットで健康志向を強調し、はとむぎ茶を売り込んだ(タイ・バンコクで)

福島県のJAしらかわは、地元のハトムギを原料にした「はとむぎ茶」を、タイ・バンコクのデパートで開いている展示会「ジャパン・フェスタ」で販売している。高めの値段設定にもかかわらず、消費者の評判は良い。

同フェスタは8月27日から22日まで開いている。週末の8月30、31日は、地元の若者などにぎわい、JAが出展したコーナーにも多くの人が訪れた。

10月から加工品供給

全農出資会社 真空低温で調理

JA全農は4日、JA・6次化ファンドを活用して7月に設立した(株)ピュアディッシュ(千葉)が10月から国産農産品を加工し、真空低温調理法で調理した加工品の供給を開始すると発表した。

同社は真空低温調理法で、真空低温調理法は、食材と調味料を専用の包装フィルムに入れ、真空状態で調理する。無添加にこだわっている。

経営ビジョン

JA石川県中央会

上坂英善会長

「来年春に長野と金沢間の北陸新幹線が開業する。大きなビジネスチャンスとして、地域農業創生につなげたい」と力説するのはJA石川県中央会の上坂英善会長。

泉開業を商機に

野菜をはじめとする多彩な農作物、郷土料理を広くアピールし、加工品開発を含めて農家が儲かる農業を実現することが重要」と指摘。農家の高齢化や担い手不足など農業をめぐる環境は厳しさを増しているが、「試練はチャンス。農家のニーズを踏まえてJA事業を総点検し、地域農業の成長の芽を伸ばすJAを三層で考えよう。長(こつ)ハ

野菜をはじめとする多彩な農作物、郷土料理を広くアピールし、加工品開発を含めて農家が儲かる農業を実現することが重要」と指摘。農家の高齢化や担い手不足など農業をめぐる環境は厳しさを増しているが、「試練はチャンス。農家のニーズを踏まえてJA事業を総点検し、地域農業の成長の芽を伸ばすJAを三層で考えよう。長(こつ)ハ



命式で安藤さんは「(介助犬の)認知度が低いことが課題だと思っている。一人でも多くの人に存在を知ってほしい」と語った。20日に開かれる補助犬大学の市民講座で講演するなど普及に努める。

JA共済連は交通事故の被害者の社会復帰を応援する活動の一環として介助犬を支援。2003年度から同協会への寄付などを行っている。

橋本龍太郎首相の夫人で同協会の会長を務める橋本久美子さんはこの日のあいさつで「介助犬は障害者の掛け替えのない存在で、(4月)152員

JA共済連は交通事故の被害者の社会復帰を応援する活動の一環として介助犬を支援。2003年度から同協会への寄付などを行っている。

橋本龍太郎首相の夫人で同協会の会長を務める橋本久美子さんはこの日のあいさつで「介助犬は障害者の掛け替えのない存在で、(4月)152員